

木材コーディネート講座オンライン版 2020・無料説明会 主な質疑応答

(A) 木材コーディネート講座オンライン版 2020 について

- 参加者限定でオンライン講座の再配信はありますか？
 - ✓ 再配信はありません。
- 12月からの連続講座についてレジュメを事前配布していただきたい。
 - ✓ タイムスケジュールとレジュメを配布いたします。
- 今回のオンライン講座を修了したら、准木材コーディネーター試験を受けられますか？
 - ✓ 今年度のオンライン版は座学ダイジェスト版であり、修了までに受講していただきたい講座を網羅できていない事情があり、修了認定の単位になりません。改めて来年度以降、基礎講座をご受講ください。
- 今回のオンライン講座参加者によるコミュニティを作る予定はありますか？
 - ✓ みなさまの熱い要望がありましたら、連続講座受講生のコミュニティを作ることを検討いたします。

(B) (来年度以降開催予定の)木材コーディネート基礎講座と資格について

- 来年度、関西での開催はありますか？
 - ✓ 開催地については、現在のところはっきり申し上げることができません。
- 来年度、座学など一部についてオンライン講座はありますか？オンラインで予習していただく形を取れないでしょうか？
 - ✓ オンライン講座で、これまで基礎講座が行ってきた受講生同士の交流など、講座本編以上のものが実現できるのかが不明であり、模索中です。今後もオンライン講座を実施するか、今回の運営結果より、検討いたします。
- 基礎講座の演習について地元で開催していただくことはできますか？
 - ✓ 演習については受講者の安全確保の面で事前の準備・段取りがかなり必要になるので、毎回異なる会場での実施は考えておりません。
 - ✓ これまでに、自治体等が主催者となる講座の運営支援を行っています。ぜひお問い合わせください。
- 基礎講座の演習を複数個所で開催していただけないでしょうか？
 - ✓ 森林の植生や森林資源の育て方や生産体制が地域によって異なってくるため、地域の体制をしっかりと学ぶという点では、複数箇所での開催は検討の余地があります。運営にはコストがかかるので受講料とのバランスになるかと。
- 基礎講座の日程の中で受講できそうにない日があるのですが。

- ✓ 受講年度を含めて3年を通してスキップした講座と同様の講座を受講していただくことで、修了することができます。各年度の受講生と知り合うことになり、ネットワークが広がります。
- ✓ 詳しいことは、FAQ (<https://school.soundwoods.net/faq/>) をご確認ください！

(C) 木材コーディネーターの仕事について

- 木材コーディネーターを生業にされている方はいらっしゃいますか？
 - ✓ 正確な数を把握しておりませんが、名刺に「木材コーディネーター」と記載されている方は多数おられます。
- 木材コーディネーターとして実際活動を始めるにあたり、どのようにして地元の林業家や生産者とコンタクトを取っていけばいいのでしょうか？
 - ✓ 率直に、周りに自分からコンタクトをとること。地域によって事情が異なるので、地道にアクセスしてみてください。周りに講座修了者(木材コーディネーター)がいれば、問い合わせてください。きっかけが見つかるかもしれません。
- 建築関係のコーディネーターの仕事はどのような建物が多いのでしょうか？公共事業が多く、民間事業に携わるのは難しいイメージがあります。
 - ✓ 民間に関していえば、森林所有者と建て主の合意を仲立ちすれば進められるので、実は難しくありません。企業のCSR活動としての木造建築に取り組みたいというニーズもあります。
 - ✓ 公共事業は多いですが、地元の資源活用や地元の生産体制の構築など多岐にわたるモデル事業を起こすためのものであり、民間への波及を狙っています。第2回講義で触れますので、ぜひご受講ください！
- 「林業」「木材生産」が土着性ということを理解されていることに感心しました。
 - ✓ はじめてみればわかることなのですが、一般に言われていることが通用しない地域が多いです。また、基礎講座を受講すると、ご自身の所属地域の「土着性」を他の地域についても学んで比較することにより認識することができ、地域の「強み」になります。
- 木材コーディネーターと森林コーディネーター(フォレスター)の違いは何ですか？
 - ✓ 森林コーディネーターは森林をどう育てるかコーディネートするが、木材コーディネーターは山の付加価値をつけるためにどのように生産流通を組み立てるかコーディネートします。
 - ✓ 本場ドイツのフォレスターは、サウンドウッズが提唱する木材コーディネーターに近い役割です。

(D) 木材コーディネーターとしてどう考えますか

- バイオマス発電について木材コーディネーターの率直な意見をお聞かせください。
 - ✓ 建築製材や家具に利用した残りの端材や、株や梢などの、建材や家具に利用が難しい部分を資源として有効利用するのが、バイオマス燃料利用と用材活用の関係だと考えます。日本の林業を生業として考えれば、原木品質に応じて多段階に活用することで、立木価値の最大化を目指す必要があります。
 - ✓ 現在、燃料としての活用される原木は安価に取引されています。利用価値のある原木まで燃料利用に流通させては、森林の付加価値は高まりません。
- 行政が風倒木を整備した後は、広葉樹が植えられています。広葉樹一辺倒になるのはどうかと思います。もう少しきめ細やかな山復元プランは立てられないのでしょうか？
 - ✓ 再造林には針葉樹だけでなく広葉樹もあるべきだと思います。用材の生産林、人の出入りが容易な場所は学びやレクリエーションなどの空間利用、樹木の成長に適した土質や搬出に向けた地形は生産林、急峻な奥山は生物の多様性を育む森として再生するといった、様々な目的の森づくりも考え方です。
 - ✓ 将来の森林の姿を描き、ビジョンをもって、今どのような手立てを施すか。木材コーディネーターは、山に付加価値をつけるべく木材生産と利用についてコーディネートしていく一方で、将来の森づくりのビジョンを描く仕事も担います。